

慶應義塾大学湘南藤沢学会ネットワーク資金報告書  
渡辺泰眞（健康マネジメント研究科スポーツマネジメント専修1年）

### 活動概要

- 【実施日時】：12月23日～1月4日  
【実施場所】：スリランカ民主社会主義共和国  
【参加者】：渡辺泰眞

### 目的

「健康」・「平和」の両面でスポーツが大きな役割を果たすと考えられるスリランカにおいて、今後どのような支援が可能なのか、関係者へのヒアリングに加え、支援活動への理解と承認を得ることを目的とする。

### 主な面会者

- 【12月26日】：Jagath Seneviratne氏（加圧国際大学副学長・大統領日本語通訳）  
【12月30日】：Kallinga indatissa氏（弁護士・大統領アドバイザー）  
【1月2日】：Mahindananda Aluthgamage氏（スリランカ・スポーツ省大臣）  
【1月3日】：B.L.H.Perera氏（スリランカ・オリンピック委員会ディレクター）

### 面会内容

最大の目的だったスポーツ大臣 Aluthgamage 氏との面会を行い、自身の活動について説明。今後の連携と活動支援について快諾を得た。

同国は2009年に約25年にもわたる内戦が終結し、昨今めざましい経済成長を続ける発展途上国である。スポーツに関しては、現在世界ランキング一位のクリケットが盛んであるが、その他草の根レベルの普及・発展には課題が残る。そのため、

2012年に新たなスポーツ政策を發布し、その課題に取り組んでいるところである。私の活動がその一助となることを期待しているとのことだった。





Jagath 氏については、内戦紛争地域におけるスポーツ交流活動の可能性をヒアリング。現状はまだまだ遺恨が残る状況（例えば、勝敗が分かれるスポーツイベントを実施した場合、それが遺恨を再燃させてしまうなど）であり、慎重な姿勢が必要だとのアドバイスもらった。

Kallinga 氏については、豊富な人脈から関係者へのコンタクトを実施（下記 Perela 氏との面会はこれにより実現）してもらい、今後も適宜支援の継続を約束してもらった。さらに、私の過去の功績（2010 年から 13 年まで、同国野球ナショナルチーム監督として活動）について、同氏より表彰と記念盾の贈呈を受けた。



Perera 氏については、同国における各種スポーツ団体の運営状況や調査方法についてのアドバイスもらった。さらに、必要に応じて同国 NOC（オリンピック委員会）からの支援を約束してもらった。

### 成果と今後の展望

スポーツ大臣をはじめ、各分野の有力者との面会を行い、自身の活動について理解を得た。トップダウンの風潮が色濃い国柄において、こうした人脈及び理解は今後の活動に不可欠なものであり、大きな成果を上げたといえる。

今後は、スポーツ省傘下の各競技団体へヒアリングを行い、より現場に近い意見の集約を実現させたいと考えている。その為、日本から継続的なコンタクトを続け、今後の当地における詳しい調査に向けて準備を行うこととする。